

# 公共事業再評価調査

整理番号 H23 - 18

担当部課名	県土整備部 道路課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 5 1
		E - MAIL	doro @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 ( 10 年 )	再評価後 ( 年 )	その他 ( )
---------	-----	---------------	------------	---------

## 1 事業概要

事業種別	道路事業	事業主体	県 市町村 其他 ( )																																																
事業名	道路改築事業 (地方特定道路建設整備事業)	地区名等	十和田三戸線 下切田 - 横道 市町村名 十和田市																																																
事業方法	国庫補助 交付金 県単独 財源・負担区分	国 % 県 100 % 市町村 % 其他 %																																																	
採択年度	平成 14 年度 (用地着手 平成 14 年度 / 工事着手 平成 15 年度)																																																		
終了予定年度	平成 26 年度 (平成 年 月 工期変更 当初計画時 平成 年度)																																																		
事業目的	<p>主要地方道十和田三戸線は、十和田市の三沢十和田線との交差点を起点とし、国道 4 5 4 号を經由して三戸町の国道 4 号交差点に至る延長約 4 7 . 1 k m の幹線道路である。</p> <p>本路線は沿線集落と十和田市街地を連絡するライフラインであるとともに、十和田市街地から沿道に立地されている老人保健施設へ向かう道路としても利用されている。しかしながら、当該地区は車道幅員が狭小 ( W m i n = 4 . 5 m ) で急カーブがあり、歩道も未整備区間があるため車輛のすれ違いが困難である。</p> <p>このことから、安全で円滑な交通を確保するため、バイパス事業を実施している。( 3 種 3 級、設計速度 6 0 k m / h )</p>																																																		
主な内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>当初計画時</th> <th>再評価時</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計画延長</td> <td>2,400 m</td> <td>2,400 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>計画幅員</td> <td>6.0(11.5) m</td> <td>6.0(11.5) m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>改良工</td> <td>2,400 m</td> <td>2,400 m</td> <td>0 m</td> </tr> <tr> <td>舗装工</td> <td>27,600 m<sup>2</sup></td> <td>27,600 m<sup>2</sup></td> <td>0 m<sup>2</sup></td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>1 基</td> <td>1 基</td> <td>0 基</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	当初計画時	再評価時	増 減	計画延長	2,400 m	2,400 m	0 m	計画幅員	6.0(11.5) m	6.0(11.5) m	0 m	改良工	2,400 m	2,400 m	0 m	舗装工	27,600 m <sup>2</sup>	27,600 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	橋梁工	1 基	1 基	0 基																								
区 分	当初計画時	再評価時	増 減																																																
計画延長	2,400 m	2,400 m	0 m																																																
計画幅員	6.0(11.5) m	6.0(11.5) m	0 m																																																
改良工	2,400 m	2,400 m	0 m																																																
舗装工	27,600 m <sup>2</sup>	27,600 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>																																																
橋梁工	1 基	1 基	0 基																																																
事業費	<p>当初計画時総事業費 1,400 百万円 (単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>~ 20 年度</th> <th>21 年度</th> <th>22 年度</th> <th>23 年度</th> <th>小 計</th> <th>24 年度 ~</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計 画</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1,077</td> <td>323</td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>( )</td> <td>( )</td> <td>( )</td> <td>( )</td> <td>( 72 )</td> <td>( 22 )</td> <td>( 94 )</td> </tr> <tr> <td>年 月変更</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>実 績</td> <td>733</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>733</td> <td>667</td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td>(うち用地費)</td> <td>( 71 )</td> <td>( 0 )</td> <td>( 0 )</td> <td>( 0 )</td> <td>( 71 )</td> <td>( 23 )</td> <td>( 94 )</td> </tr> </tbody> </table>				~ 20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	小 計	24 年度 ~	合 計	計 画					1,077	323	1,400	(うち用地費)	( )	( )	( )	( )	( 72 )	( 22 )	( 94 )	年 月変更								実 績	733	0	0	0	733	667	1,400	(うち用地費)	( 71 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 71 )	( 23 )	( 94 )
	~ 20 年度	21 年度	22 年度	23 年度	小 計	24 年度 ~	合 計																																												
計 画					1,077	323	1,400																																												
(うち用地費)	( )	( )	( )	( )	( 72 )	( 22 )	( 94 )																																												
年 月変更																																																			
実 績	733	0	0	0	733	667	1,400																																												
(うち用地費)	( 71 )	( 0 )	( 0 )	( 0 )	( 71 )	( 23 )	( 94 )																																												

## 2 評価指標及び項目別評価

### (1) 事業の進捗状況

(A) · B · C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	(うち用地費)		52.4 % [ / ]	68.1 % [ / ]
			( 75.5 % ) [ / ]	( 98.6 % ) [ / ]
	主要工種 毎割合 (事業費)	改良工 ( 1,059 百万円 )	43.6 %	56.7 %
	舗装工 ( 151 百万円 )	53.6 %	69.8 %	
	橋梁工 ( 190 百万円 )	100.0 %	130.1 %	
説 明	用地進捗率は約 7 6 % の見込みであり、引き続き用地取得を進め、事業の早期完成を図る。			
問題点・ 解決見込み	平成 1 4 年度に事業着手したが、道路事業費の削減により完了工区へ優先配分したこと。また、一部区間の用地取得が難航していたことから、やむを得ず平成 1 9 年度より事業を保留としていたが、用地問題の解決方針が整理され、今後の事業展開が可能となったため、平成 2 4 年度に事業を保留解除する予定である。			
事業効果 発現状況	平成 1 8 年度までにバイパス終点側延長 L = 1 2 1 0 m を部分供用しており、車道幅員狭小区間が解消され、円滑な交通の確保が図られている。			

## (2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	【全国の評価】 平成21年3月に閣議決定された「社会資本整備重点計画」では、地域社会の活力を維持し、豊かな暮らしを実現するため、また、安全で信頼性の高い社会の実現を図るために、選択と集中の方針の下、重点的・効率的に道路整備を図ることが必要とされている。	【県内の評価】 公共交通機関が未整備である本県にとって、自動車を主とする交通に頼らざるを得ない状況であるが、県内の道路は未整備区間が多く、さらに豪雪地帯であるため、冬期の安全確保や社会基盤整備としての道路整備に対する要望は多い。
	当地区における評価	沿線住民が上十三圏域の中核病院である十和田市立中央病院等の市街地の公共施設へ向かうための生活道路であり、また、十和田市街から老人保健施設への連絡道路でもあるため、安全で円滑な交通環境へ改善をする必要がある。	
必要性	当該工区は車道幅員狭小で急カーブがあるため、集落内の交通環境の改善を図るためにもバイパス整備が必要である。		(a) . b
適時性	本路線の沿線には介護老人保健施設があり、十和田市街からデイケアサービスを受けるために当施設へ通ったり、当施設から各家庭へ介護ヘルパーが訪問していることから、通年を通じた安全で円滑な交通の確保が求められている。		(a) . b
地元の推進体制等	用地進捗率は約76%となっていることから、事業に対する地元の理解も得られているため、今後も着実な用地取得が見込める。		(a) . b
効率性	現道の通過交通がバイパスへ転換されることにより、集落内の沿道環境の改善が図られる。 十和田市から新郷村を經由し三戸町の国道4号の交差点までに至る主要道路であることから、各市町村の連携強化に寄与する。		

## (3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1)事業費	百万円	1,415 百万円	1,415 百万円
	(2)維持修繕費	百万円	164 百万円	164 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	- 百万円	1,579 百万円	1,579 百万円
便益項目 (B)	(1)走行時間短縮便益	百万円	838 百万円	838 百万円
	(2)走行費用減少便益	百万円	39 百万円	39 百万円
	(3)交通事故減少便益	百万円	-24 百万円	24 百万円
	(4)冬期便益	百万円	231 百万円	231 百万円
	(5)防災便益	百万円	503 百万円	503 百万円
	総便益(B)	- 百万円	1,587 百万円	1,587 百万円
地域修正係数( )	-	1.461		
修正総便益(B')	- 百万円	2,319 百万円	2,297 百万円	
費用便益比	費用便益比(B / C)		1.01	
	修正費用便益比(B' / C')	-	1.47	
費用対効果分析 (B / C)	【費用対効果分析手法】(分析手法、根拠マニュアル等) 費用便益分析マニュアル(平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局) 道路整備事業における県独自の費用便益分析実施要綱(平成22年3月 青森県 県土整備部 道路課)			(a) . b
計画時との比較	【計画時との比較における要因変化】 事業着手時点において県単独事業として着手したことから費用対効果分析を実施していない。			a . b

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A) · B · C
コスト縮減	<p>【コスト縮減の検討状況】</p> <p>路盤材、舗装材に再生材を使用し、経費の縮減を図ることとしている。 排水施設等の小規模構造物については極力、工場製品を使用し、工期の短縮及び経費の縮減を図っている。</p>	(a) · b
代替案	<p>【代替案の検討状況】</p> <p>比較ルートとしては現道拡幅及び線形改良が考えられるが、現道は人家連坦していることから家屋移転等が生じるなど住民への影響が大きいため、バイパス案である実施中のルートが最適である。</p>	(a) · b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A) · B · C															
住民ニーズの把握状況	<p>【住民ニーズの把握方法】</p> <p>十和田市から当該地区の整備について重点要望が出されている。</p>	<p>【住民ニーズ・意見】</p> <p>車道幅員が狭小であり、現道の道路線形も悪いことから、安全で円滑な交通確保のため、早期整備を求めている。</p>	(a) · b														
環境影響への配慮	<p>【開発事業等における環境配慮指針への対応】</p> <p>(1) 対応状況 配慮している 配慮していない</p> <p>(2) 区分</p> <table border="0"> <tr> <td>農林地等の緑地や植生の改変</td> <td>地形や地盤の改変</td> <td>水系や水辺の変更</td> </tr> <tr> <td>海域環境の変更</td> <td>敷地整備段階での重機の使用</td> <td>土砂等の搬出・搬入</td> </tr> <tr> <td>廃棄物処理等</td> <td>道路(車歩道)、雨水排水路の設置</td> <td>基礎や地下建造物の建設</td> </tr> <tr> <td>低層建築物の建設</td> <td>高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高架構造物の建設</td> <td>海底・海中建造物の設置や建設</td> <td></td> </tr> </table> <p>(3) 特に配慮する対応内容 (廃棄物処理等) 抜根材をチップ化し、緑化材として有効利用する予定である。</p>	農林地等の緑地や植生の改変	地形や地盤の改変	水系や水辺の変更	海域環境の変更	敷地整備段階での重機の使用	土砂等の搬出・搬入	廃棄物処理等	道路(車歩道)、雨水排水路の設置	基礎や地下建造物の建設	低層建築物の建設	高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮		高架構造物の建設	海底・海中建造物の設置や建設		(a) · b
農林地等の緑地や植生の改変	地形や地盤の改変	水系や水辺の変更															
海域環境の変更	敷地整備段階での重機の使用	土砂等の搬出・搬入															
廃棄物処理等	道路(車歩道)、雨水排水路の設置	基礎や地下建造物の建設															
低層建築物の建設	高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮																
高架構造物の建設	海底・海中建造物の設置や建設																
地域の立地特性																	

### 3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	全ての項目が「A」である他、病院施設もしくは老人保健施設へ向かうために通年を通じた円滑な交通確保が必要であることから対応方針を「継続」とした。			
備考				

### 4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき
委員会評価	継続	計画変更 中止 休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見		
評価理由		